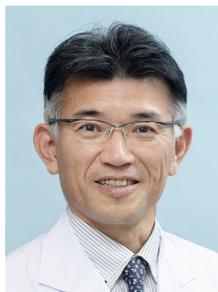


診療科長に聴く

眼科編

眼科 教授

ノマ ヒデタカ
野間 英孝



本日は、眼科の診療科長である野間英孝教授にお話を伺います。

Q：眼科の診療科長である野間先生の専門分野をお伺いします。

A：網膜硝子体手術と黄斑疾患を専門とする、日本眼科学会専門医です。その他、PDT認定医、視覚障害者用補助具適合判定医、水晶体囊拡張リング認定医の資格も有しています。

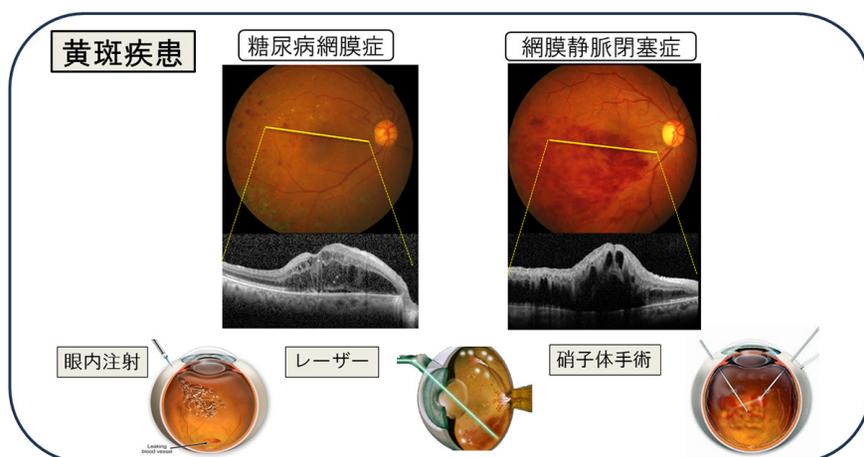
また、眼科内視鏡研究会理事や茨城県眼科医会理事も務め、科学研究費助成事業基盤研究などの研究助成採択歴もございます。

Q：眼科は、どのような疾患を対象にしていますでしょうか？

A：網膜硝子体疾患、黄斑疾患、白内障、緑内障、角膜疾患、眼腫瘍、眼窩疾患、神経眼科疾患など、多岐にわたる眼科疾患に対応しています。

Q：野間先生が工夫している手術や治療技術はどのようなものでしょうか？

A：加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症などがあると、黄斑疾患を発症しやすく、視力低下を引き起こします。当科では、この黄斑疾患の治療に際し、図に示すように抗VEGF薬の眼内注射、レーザー、手術を駆使しており、国内でも有数の治療実績を持つ施設です。



(裏面に続く)

聴き手
スガハラ シンジ
菅原信二

放射線科 教授

- ・放射線学会
- ・放射線治療専門医
- ・放射線腫瘍学会 認定医
- ・当院広報委員長

東京医科大学茨城医療センター

〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央 3-20-1 / TEL 029-887-1161

各診療科外来担当医につきましては、当院ホームページをご確認下さい。

<https://ksm.tokyo-med.ac.jp/>

紹介患者・医療連携については、総合相談支援センター 医療連携まで



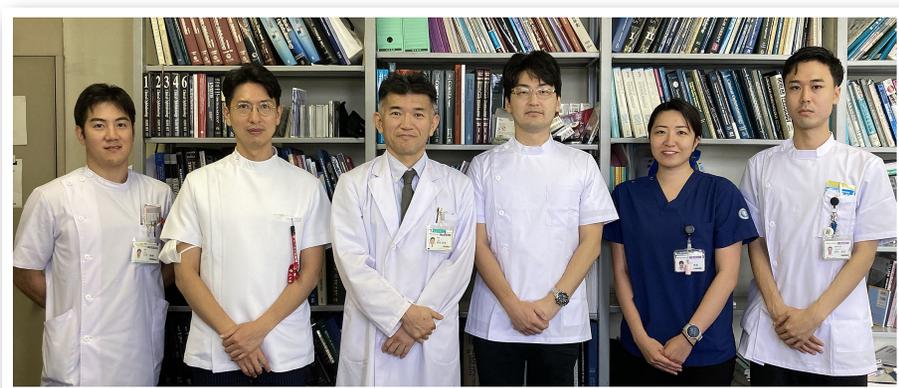
(表面から続く)

Q：眼科は手術以外にも、眼の病気の診断、薬物療法など様々診療を行っていると思いますが、診療内容について教えてください？

A：現在、黄斑疾患に対しては様々な抗 VEGF 薬が開発されています。当科では、最新の画像診断装置で診断を行い、抗 VEGF 薬注射を数多く実施しており、国内でも有数の症例数を扱っています。

Q：眼科のスタッフや得意分野について教えてください？

A：眼科には現在、私を含め常勤医 5 名、非常勤医 6 名の計 11 名が在籍し、様々な眼疾患に対応しています。特に網膜硝子体疾患を得意とし、柳田紘生講師とともに網膜硝子体手術を行っています。



Q：大学の眼科として、行っている研究活動にはどのようなものがありますか？

A：当科では、黄斑疾患患者さんの同意を得て、抗 VEGF 薬注射時に前房水を採取し、VEGF 以外の関連タンパク質を特定する臨床研究を行っています。これは、抗 VEGF 薬に代わる新薬開発を目指すものです。

Q：眼科として、患者さんを診る上で診療のポリシーとしているものは、何でしょうか？

A：目の状態だけでなく、患者さんの仕事、生活習慣といった個々の生活背景を深く理解し、お一人おひとりに合わせた最適な治療プランをご提案することを心がけています。

Q：受診する患者さまに一言お願いします。

A：一人ひとりの患者さんの幸せを願って、ベストの治療を提供し、「茨城医療センター眼科に受診して良かった」と言ってもらえるよう精進してまいります。